

自作教具の活用事例

【作品名】 はらぺこあおむし エプロンシアター	【学校名】 日立市立日立特別支援学校
【活用できる領域・教科等】 国語	【制作者名】 梅原 由紀子
【制作の意図】 本校の低学年生の教科用図書として採用されている「はらぺこあおむし」は子どもたちみんなが大好きである。歌を歌いながら、絵本のページをめくることを楽しめる児童もいるが、エプロンの上で絵本の内容を繰り返し広げることができたらもっと興味をもち、集中しながら物語の世界を楽しむことができるのではないかと考え、制作した。教師が子どもと向き合っていることもあり、子どもたちは安心感を得ることにもつながるのではないかと考えた。机の上に並べられたあおむしが食べるもののパーツを物語の内容に沿って選んでエプロンに貼っていく操作活動を取り入れることで、物語を自分たちの手で完成させる達成感も味わわせたいと考えた。	【使用の方法】 コンセル（株）社から出されているCDで「はらぺこあおむし」の歌を流しながら進めていく。CD ラジカセで流すと若干速すぎて子どもたちがエプロンに貼る作業が追いつかなくなってくるので、アンプで再生の速度を遅めにして、曜日ごとに曲を停止しながら進めていく。土曜日の内容が盛りだくさんなので、食べたものを選んで貼る作業が忙しくなるが、子どもたちは忙しくなるほど、楽しめている様子が見られた。
【制作上の工夫】 机の上に並んだ物から児童が対象のものを選びやすいように、絵本に登場する食べ物と見た目が同じようになるように、フェルトの色や糸の色などの選択を工夫した。	【実際に使用している様子】 
【写真】 	【使用効果と応用発展】 絵本をめくって読むことも楽しんでいるが、エプロンの上で物語が繰り返し広げられ、内容に合ったものを選んで貼るという活動に参加することもできるので、内容の理解が深まったのではないかとと思われる。 また、「リンゴを1つ」「なしを2つ」「すももを3つ」「いちごを4つ」「オレンジを5つ」など、数を数える内容も含まれているので、低学年の児童にとっては、算数の基礎の学習にもつながったのではないかとと思う。
【材料・材質・部品等】 ・市販の単色のエプロン1枚 ・100円ショップのフェルト（同じ色でも微妙に違いがあるので、ダイソー、セリア、CAN DO などいろいろなところのものを買いそろえ、太ったあおむしやさなぎのグラデーションを出した。） ・100円ショップの刺繍糸 ・100円ショップのマジックテープ（何度も貼ったりはがしたりすることを考えて、縫い付けるタイプ）	